

(参考資料)

【ため池】

農業用ため池は、灌漑用水の不足を補うため古来より築造され、その数は全国で21万ヶ所に達する。

【土地改良事業設計指針「ため池整備」】

本指針は、農業用ため池改修の設計を行うために必要な、一般的な調査、設計及び施工についての手法や、配慮すべき事項をとりまとめたものであり、平成12年2月に制定された。なお、本指針は、国営土地改良事業によって実施する農業用ため池改修の設計に関する事項を取りまとめている。これ以外の土地改良事業として実施されるため池改修については、当該事業主体の独自の判断の下で本指針は準用されている。

【ため池の地震設計】

ため池の耐震設計は、レベル1地震動を考慮し、「健全性を損なわない」という耐震性能を目標として行う。強震帯、中震および弱震帯について、ため池のタイプ別に決められた設計水平震度を用いて円弧すべり計算を行い、安全率1.2以上となるよう設計する。また、基礎地盤および堤体における液状化についても検討を行う。

ため池・調整池の重要度区分と耐震性能

地震動レベル 重要度区分		レベル1地震動	レベル2地震動
		A種	
A種	耐震性能	1. 健全性を損なわない	- (対象としない)
	耐震設計	耐震設計を行う	- (耐震設計を行わない)
B種	耐震性能	1. 健全性を損なわない	- (対象としない)
	耐震設計	耐震設計を行う	- (耐震設計を行わない)
C種	耐震性能	1. 健全性を損なわない	- (対象としない)
	耐震設計	耐震設計を行う	- (耐震設計を行わない)

(出典) 土地改良施設耐震設計の手引き (H16.3) p.374

【ため池の設計洪水量】

ため池の設計を行う場合に考慮される最大の洪水流量を設計洪水量と呼び、通常、確率的に200年に1回起こると推定される200年確率洪水流量をいう。ただし、洪水の堤体越流が発生すると堤体決壊を引き起こす致命傷になりかねないことから、安全性を高めるため200年確率洪水量にさらに20%の余裕を見込む。

【ジオグリッドを使用した耐震性盛土工法】

合成高分子材料からなる引っ張り力に強い抵抗性を発揮する格子構造のシート（ジオグリッド）を、盛土の中に一定の高さ毎に層状に敷設していく工法。

【堤体越流型ため池】

ため池堤体にジオグリッドや土嚢などを用いて、洪水の一部が堤体を越流しても十分な抵抗性を発揮する構造のため池。